

子どもの内部被ばくを0にするため学校給食食材の放射線量0を目指します。



0ベクレルの学校給食をめざすわけは



3.11以降日本は放射能汚染から逃れることはできません。汚染された国土で食べ物を生産・流通・消費します。

放射性物質：フクシマ原発 大気・土壌・海 生産物 子どもの身体 遺伝子

嵐山町の学校給食食材は、20ベクレル以下を測定しないので、広報では0ではなく不検出となっています。学校給食で放射線量0を目指すには時間をかけ精密な測定が必要です。精密な測定で不検出だと安全です。

下のグラフは放射性セシウムの摂取と体内の蓄積のグラフです。

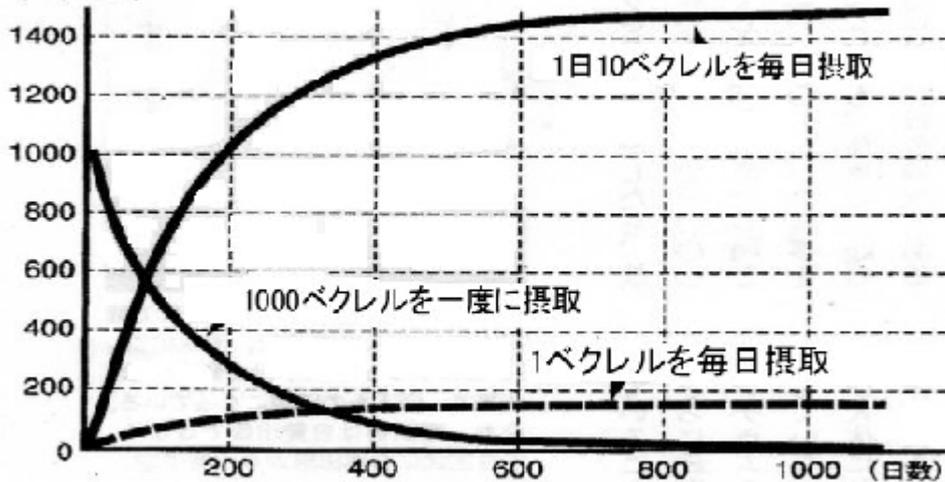
一度に1000ベクレルの食品を食べること、毎日10ベクレル、毎日1ベクレルを食べる比較です。

毎日10ベクレル食べると身体に蓄積され700日で1400ベクレル蓄積され、遺伝子が傷つきます。

毎日1ベクレルだと1000日でも200ベクレル以下の蓄積で、遺伝子の傷つきが少ないと思われます。

放射性セシウムの1回摂取と長期摂取による体内残存量の経時推移

(ベクレル)



セシウム137について、1000ベクレルを一度に摂取した場合と、1ベクレル、および10ベクレルを1000日間、毎日摂取した場合の全身放射能 (ベクレル) の推移。

出典：ICRP PUBLICATION111,2009 訳：竹之内真理

「厚生労働省は4月から食品の放射能汚染基準値を500から100ベクレルに下げると発表しました。

この規制値では、内部被ばくを0にすることはできません。

3~5才児の1日の食事は、主食200g、副菜を250gで450gです。

規制値1kg100ベクレルでは3~5才児は最大毎日45ベクレル摂取を許してしまいます。

こどもの体内に入った放射性物質は臓器や骨や筋肉に付着します。

細胞分裂を繰り返して大人になる子どもの遺伝子を傷つける危険があります。

放射能汚染後の日本では、これから成長する人が安全なものを食べられるように優先的な配慮が必要です。

学校食材放射線の検出限界を1ベクレルで測定し、数値を公表し、数値を知ることからスタートです。



渋谷とみ子の会 埼玉県比企郡嵐山町平沢254-64 Tel / Fax 0493-62-7997
<http://space.tom-shibuya.com> e-mail 713@tom-shibuya.com